

Weak forms

- 下の左端の語を単独で発音した場合と、の文中での発音の場合を書いてみよ

next [] - next week – I'm going next [] week

worst [] - worst job – That was the worst [] job I ever had!

just [] - just one – Just [] one person came to the party!

can't [] – I can't [] swim!

- penny for[fə] your[jə] thoughts, fish and[(ə)n] chips, cup of[ə(v)] tea
上の for, your, and, of を単独で発音した場合の発音記号も辞書で確かめよ。
- その語だけを単独で(in isolation)発音する場合と、文中での連続音声(connected speech)場合とで、発音の異なる語がある。単独の場合の形を強形(strong form)や引用形(citation form), 連続音声の形を弱形(weak form)と呼ぶ。正しい弱形の発音をすることはLとRの区別よりずっと大切。
- 日本語やフランス語は音節の個数を揃えることでリズムを作る傾向が強く、syllable-timed と呼ぶ。
- 日本語の五七五はカナ文字の数を数えるが、CV音節となり五七五等を作るが、状況により「ん、ー、っ」も1拍(1モーラ)としてカウントすることができる。
- 英語やロシア語は、強勢のある音節が一定の間隔で生起する傾向が強い。そこにリズムが感じられるので stress-timed と呼ぶ。リズム間隔内の音節数は比較的的自由になるので、Girls like sweets.と The girls like her sweets.を発話すると、必要な時間はあまり変わらない。
- 強勢間の時間が変わらない=各音節を読む速度が上がる=各音節の長さが短くなる。
- リズミカルに速く読むために適した発音が weak form。
- 英語の語彙を、事物の名前や性質、動作等の固有の意味を持つ content words (内容語)と、文法機能を担うだけの function words (機能語・代名詞、前置詞、接続詞、関係詞、助動詞等)に分ける。
- 弱形の機能語は contracted forms (縮約形)を持つことがある。縮約は形態(つづり)の問題で、発音とは関係がないことに注意。“I CAN'T!”の can't はつづりの縮約形だが、発音は強形[kænt]。
- 以下のような場合も通常は weak form にならない。
 - 文末 (Chips are what I'm fond OF. [əv] -> [ɔv])
 - 対照 (The letter's FROM him, not TO him. [frəm, tə] -> [frɒm, tu:])
 - 強調 (You MUST give me more money. [məs]-> [mʌst])
 - 引用 (You shouldn't put “AND” at the end of the sentence. [ən] -> [ænd])
- そのほか注意すべきもの
 - the 後続の母音に関係なく強形は[ði:]。
 - a, an 強形は[eɪ][æn]。a/an hotel, a/an history は現在表記が揺れているのでペケにしないこと。弱形との区別がはっきりしない[e]も実際にはよく現れる。

- and 強形は[ænd]. 弱形[ənd]は[d]がほとんど聞こえない.
弱形の[ə]も聞こえなくなると[n]だけになるが、音節としての独立性は保たれ[n]となる.
最終形(?)として come see や go get という言い方はよく使われる.
- that 代名詞の強形は[ðæt]だが、関係詞を[ðæt]とは発音しない.
発音の違いで文法機能を示差できる良い例.
- his 強形が[hɪz]. [h]はもともと母音の無声化したものなので、母音と融合し聞こえない.
- her 強形が[hɜːr] 子音の前では[h]と[r]の両方が聞こえなくなり[ə]だけが残る.
- your 強形が[juə]. 子音の前では[u]と[r]の両方が聞こえなくなり[jə]だけが残る.
- some 強形は[sʌm]. for some reason や in some instances のような「何かの」の意の時には強形だが、
some friends や some knowledge のように、訳さずに済む意味の場合は弱形.

Elision (脱落)

- 弱形では母音も子音も弱くなり、究極の弱形として音の省略・脱落が生じていた
- 内容語などの弱形を持たない語でも、その方が発音しやすければ音の elision は生じる。
- last [la:s*] week - rent [rent] week, next [neks] d[#]ay - next [nekst] h[#]oliday - next [nekst] afternoon の例から [t]の elision は無声子音(s*)の後、子音(d[#], h[#])の前で起こることが分かる。

	citation forms	elided forms	notes
potato	pə'teɪ.təʊ	p'teɪ.təʊ	弱母音 ə の脱落。3 音節から 2 音節へ。
perhaps	pər'hæps	præps	弱母音 ə の脱落。2 音節から 1 音節へ。
because	bɪ'kɔːz	kəz	弱音節 bɪ が脱落し、強母音 ɔːが弱母音 ə へ。 縮約形 'cos を持つ。
tonight	tə'naɪt	'tnaɪt	
excuse me	ɪks'kjuːz mɪ	'kskjuz.mɪ 'skjuːz.mɪ	
give him it	gɪv hɪm ɪt	'gɪvɪmɪt	h はしばしば脱落。
fifths	fɪfθs	fɪfs	連続する子音の一部が脱落。
don't know	dəʊnt nəʊ	dənəʊ	
want to	wɒnt tuː wʌnt tə	wʌnə	無声歯茎閉鎖音 t の脱落 (有声鼻音 n も舌の位置は歯茎なので同化して n になったと考えても良い)。 cf. Who do you want t to come first? (t trace)